

又平谷由来

吃（ども）の又平（またべい）という大津絵師が大谷に住んでいて使用していた手水鉢（ちょうずはち）が残されていて又平の遺物とされ、この辺を又平谷（またへいだに）と言うようになったらしい。正式には木下谷国有林と言います
近松門左衛門の浄瑠璃の傾城反魂香（けいせいはんごんこう）に同じ吃の又平が登場してそちらの方が有名になり混同して伝えられているようである。